

## 集落営農法人の設立とその育成

### 1 プロジェクト課題の設定

管内農業の現状は、

人 → 農家の減少・担い手の高齢化

農地 → 耕地面積の減少・耕作放棄地の増加

物 → 農業生産力の低下

地域 → 活力の減退



こうした状況を打開するためには、

①集落等を単位とした「集落営農法人」を設立

②集落の農地は法人で維持

③法人は集積した農地を最大限利用

④法人を核に農業生産力の向上(経営安定・産地育成)

⑤法人が雇用の場を創出し、農業を地域産業の核

とすることが最も重要かつ効果的と考えた。

## 2 平成23～24年度のプロジェクト課題

### (1) プロジェクト課題

「担い手(主に**集落営農法人**)の育成とその担い手を核とした**産地づくり**」

(2) 計画策定 4地域ごとに作成

(3) 活動体制 4地域ごとに活動

地域名	地域の状況	H22年までの活動状況
山口南部	大規模ほ場整備が進み土地利用型農業が主体。大規模個人農家が混在。	17法人を設立済み。 法人経営の複合化を推進。
山口北部	仁保・小鯖地域はほ場整備がほぼ終了。	特団8団体を設立済み。(設立済の法人は2法人)
山口阿東	稲作に特化。ほ場整備率は約94%。	8法人を設立済み。
防府徳地	防府市西部に大規模ほ場整備が進展中。旧徳地町のほ場整備率約35%。	西部と旧徳地町を中心に法人化を推進。

## 3 目標の設定

○法人化の可能性と進行管理の観点から数値目標を設定

### 集落営農法人の設立数

	H19年	H22年	H23年	H24年
地域名	基準	実績	目標	目標
山口南部	9	17	18	20
山口北部	1	2	5	10
山口阿東	4	8	10	16
防府徳地	3	3	5	8
管内合計	17	30	38	54

※集落営農法人へ概ね20%の農地を集積することを想定

※H24年目標数は農林水産部方針のもとに上方修正後の数値

## 4 平成23～24年度の活動実績

### (1) 指導対象組織数

年度当初に可能性のある組織等をピックアップ

	新規設立	H23年	H24年
地域名	目標数	対象組織	対象組織
山口南部	3	4	5
山口北部	8	9	8
山口阿東	8	16	9
防府徳地	5	6	10
管内合計	24	35	32

タイプ①特団等これまで継続して指導してきた組織

タイプ②平成18年以降断片的に指導に係った組織

タイプ③未開拓集落・組織へ事業等を新たに仕掛けた組織

### (2) 活動方法と進行管理

#### ○活動方法

- ①対象組織ごとに主担当者と副担当者を配置
- ②担当者で年度内設立に向けた活動計画を策定
- ③活動計画に基づく活動を展開
- ④関係機関を交えて法人化へ向けた打ち合わせを実施

#### ○進行管理

- ①主担当者は毎月の活動記録や課題等を担い手支援課長へ報告
- ②報告内容を1ペーパーにまとめ企画会議や全員会議で問題点の抽出や対応策等を検討し、設立に関する方策や状況等を共有
- ③法人設立が不可能と判断した組織は対象から落とす
- ④法人化の可能性のある組織等を随時ピックアップ
- ⑤法人化の可能性のある組織へ指導を集中

○法人設立に関する重要なポイント(目標達成要因)

【指導機関】

- ① マネジメントサイクルの活用(対象と目標の明確化)
- ② 地域情報をこまめに収集・分析(関係機関との協力体制)
- ③ 集落リーダーを含む取りまとめ役を育成
- ④ 担当者が組織・集落に受け入れられること

【組織・集落】

- ① リーダーを含む取りまとめ役が複数名必要
- ② 反対者は排除せず取りまとめ役を介して個別に説明
- ③ 世帯主だけでなく全員が話し合いに参加し情報等を共有
- ④ 女性の能力を最大限活用・発揮
- ⑤ 全戸参加が目標だが不参加者が出ることもやむを得ず

(3)活動成果(その1)

○数値目標に対する成果

**25法人を設立(目標プラス1)**

	新規設立	H23年	H24年	2年間の
地域名	目標数	設立実績	設立実績	設立数
山口南部	3	2	4	6
山口北部	8	1	5	6
山口阿東	8	4	7	11
防府徳地	5	1	1	2
管内合計	24	8	17	25

(3)活動成果(その2)

○法人が集積した農地は 1,760ha

農地集積率は21%

○法人の経営面積は 2,068ha

土地利用率は118%

	H23	H24
農地集積面積	1,332ha	1,760ha
集積率	15.0%	21.0%
経営面積	1,545ha	2,068ha
利用率	116%	118%

(3)活動成果(その3)

○法人の営農類型

	H21年	H24年
水稲のみ	1	11
水稲+麦・大豆	15	18
水稲+野菜	0	2
水稲+麦・大豆+野菜	11	22
その他	0	2
合 計	27	55

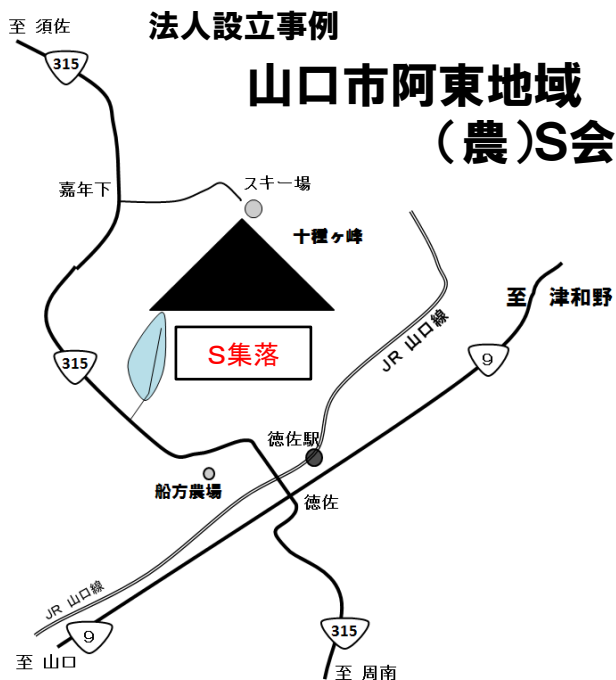
## 5 今後の取組方向

### (1) 活動方針

- ① 集落営農法人の新規設立(20法人)
- ② 集落営農法人への農地集積(概ね40%)
- ③ 法人を核とした産地づくり(法人経営の複合化)
- ④ 法人の多角経営化
- ⑤ 法人を核とした就労の場づくり  
(法人就業者並びに後継者の確保)
- ⑥ 法人間連携
- ⑦ 法人を核とした農村社会の再生・活性化

### (2) 活動期間

平成25～28年度 (4年間)



## K集落(山口市阿東徳佐)

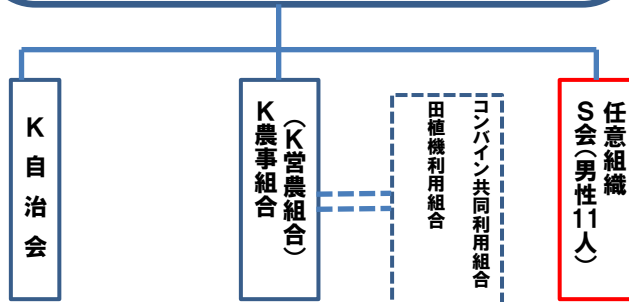
○戸数31戸 男性20人 女性 33人 計53人

(60歳以上 男性90% 女性82%)

○農家戸数15戸 土地持ち非農家14戸

○農地面積27.6ha(2010年センサス)

○中山間直支:K協定(単独集落協定)



## 任意組織 S会の概要

### ○設立日

平成19年4月1日

### ○設立のきっかけ

集落内の高齢農家が「農地を管理してほしい」と現代表に依頼。現代表は一人では管理が出来ないので集落内の若い者に声をかけ、11人で会を結成。

### ○活動状況

- ①集落内で管理できなくなった農地を会員が共同管理
- ②共同育苗(1,500枚)
- ③H23年度は共同作業でたまねぎ栽培実施



集落が動き始めたきっかけ(法人設立に向け動き出したきっかけ)

H23年度 たまねぎ栽培の  
推進と技術指導



- S会と信頼関係  
できる
- 集落内に様々な資  
源があることがわかる。  
守りたい意識が強いこ  
とも把握

◎H24年5月24日  
S会に棚田保全活動支援事業を提案。(実  
施することで決定)

H24年5月28日  
S会男性で集落点検を実施。女性は意見交換から参加。

「こういう集落にしたい」という思いがまとまる  
女性は葬儀しかあつまる機会がないので何かしたい意向あり。

集落を見つめ直すきっかけとなる

S会の法人組織化を提案  
(5月29日)

定期的な女性集会を提案  
(5月28日)

集落点検でまとまった意見

○男性

〈当面〉

- ・登山者や集落来訪者の駐車場が必要
- ・草刈がやりやすいよう水路一部の補修が必要
- ・史跡周辺(生木地藏周辺)の環境整備が必要

棚田保全活動支  
援事業で整備支  
援

〈次の目標〉

- ・集落内の荒廃した沢わさび田を復活させたい
- ・集落内の史跡や多くの資源をPRしたい  
(集落に多くの人に来るようにしたい)
- ・集落内の農産物を有利販売したい

集落内組織の体  
制強化支援  
(法人化)

〈最終目標〉

- ・他出している後継者に集落へ目を向けさせたい

○女性

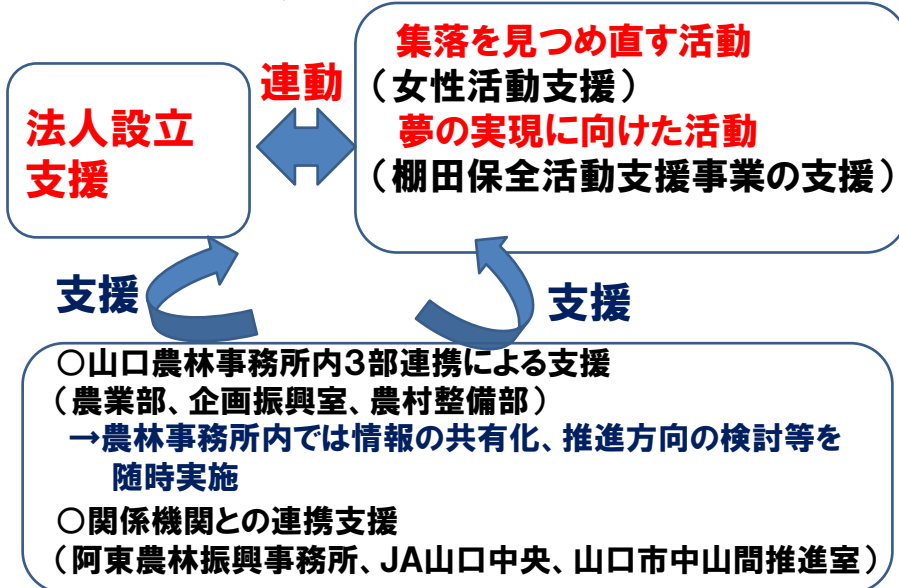
- ・葬儀しか女性が集まる機会がなくなった。今回の  
ようなことは楽しい。
- ・今後も女性のみで集まり、家庭料理や加工品の  
意見交換がしたい

女性活動の支援





## 活動の進め方(3つの支援を同時に進行)



## 法人設立に向けた支援活動内容

### 合意形成と設立する法人内容の検討支援(6月～8月)

#### ○研修会の開催(1回)

集落点検活動で出された意見から「Kの恵みの維持と新たな恵みづくり」をテーマにし、説明を実施

#### ○協議支援

- ・協議スケジュールを提示し設立月の目標を設定
- ・法人体制等の内容協議支援(3役との事前協議 4回、全体協議 5回)
- ・設立する法人の理念、当初目標の設定支援(KJ法)

### 設立総会開催に向けた支援(10月～11月)

- ・設立総会開催に向けた資料作成の指導(3役との協議6回)
  - ・農用地利用改善団体設立支援
  - ・農用地利用集積手続きの準備支援
- 平成24年12月9日設立総会

### 設立登記及び届出関係の支援(12月～1月)

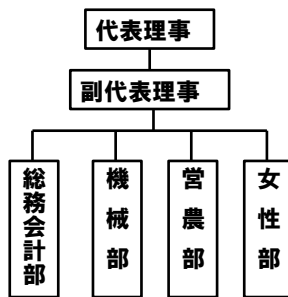
- ・理事3役への指導(4回)

平成25年1月8日設立登記

## 農事組合法人 S会

設立総会 H24年12月9日 設立登記 H25年1月8日

- 組合員 21人(男性11人 女性10人)
- 経営面積 約15.7ha
- 経営内容 水稲(H25産から営農開始)
- 役員体制 理事12人(男性9人、女性3人)、監事(男性2人)



## 法人理念

Kの美しい自然と農地を守る

## 法人サブ理念

- 後継者確保が行いやすい体制づくり
- お互いが助けあう絆づくり
- 将来も現役で活躍する意識づくり

## 当面の実践目標

- 水稲の乾燥調製作業を集落内で実施する
- 水稲経営にわさびを加えた経営の検討と実践
- 集落共有わさび田の有効利用



## 集落を見つめ直し、夢をつくる活動(女性活動支援)

- ・棚田保全活動支援事業に必要な集落ビジョンづくり、集落点検マップづくり四季の暦づくりを女性に担ってもらう←代表が定期的に女性に集まってもらいやすくするため方向を示す

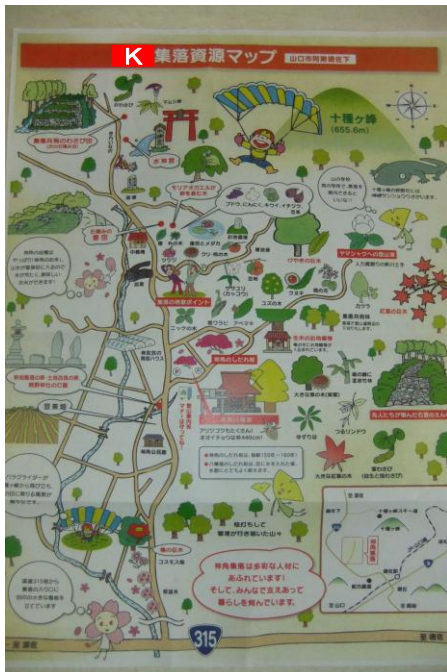
### ◎女性による集落点検活動

女性(住民)自身が人の点検(10月12日)、資源の点検(10月31日)を実施し、まとめる。(集落を見つめ直すきっかけとする)

※資源の点検は、「5月に男性が行ったことがしたい」と意見があり実施(男性数名が現地案内を行うとともに、集落の長老から「いわれ」や「歴史」も説明してもらう)

#### 【参加した女性の意見】

- ・嫁いできてこんない場所があることを初めて知った。PRしたい。



## 集落を見つめ直し、夢をつくる活動 (女性活動支援)

### ○意見交換会

S会男性が共同作業(草刈)を行う日に昼食づくりを行いながら意見交換(2回開催)。

また、作った料理を作業を行った男性と食べながら集落のことを意見交換。



10月からS会男性の共同作業がなくなる。  
→**棚田保全活動支援事業の作業日、棚田保全協議会、法人設立総会の昼食づくりで女性が集まり、意見交換。**



## 夢の実現に向けた活動

(棚田保全活動支援事業の支援内容)

夢の実現に向け、集落内の環境整備を実施



駐車場整備



生木地藏周辺の環境整備



水路周辺の整備

各男性メンバーの能力(重機取扱、測量、石垣づくり)が発揮される

**メンバー内で能力の認め合いがより強まった**

## 夢の実現に向けた活動

### 視察研修

実施日:平成24年9月2日  
視察先:大潮の里を守る会(周南)  
          渋川をよくする会(周南)  
          棚田清流の会(周南)  
参加者:S会の男性、女性全員



#### 【参加者の反応】

- ・取り組まれている内容がすごい。自分達も何かしたい(女性)
- ・人が集まる場所に展示をすることは良い(代表)

K公民館内で展示が始まる



## 夢の実現に向けた活動

### H24年度やまぐち棚田保全協議会の受け入れ

◎(H24年11月8日)

県全体の協議会をK集落で開催

参集者:協議会委員

山口大学農学部 深田教授(学生も4人参加)  
山口県消費者団体連合会 名和田副会長  
山口新聞本部 宮本副本部長 等計7人  
S会(男性9人 女性8人)



委員の皆さんから取組内容に対し高い評価と前向きなアドバイスあり。

→山口大学学生から「学生よりも皆さんの目のほうが輝いている」と感想あり。

→その後、山口新聞宮本副本部長がコラムでK集落を紹介。

また、参加した学生がKの法人化の取組を卒業論文のテーマに取り上げ、学生がS会の聴き取り調査を実施。

S会の男性、女性は自分達が5月から取組んだ内容の成果を確信し、自信へと繋がった

## 夢の実現に向けた活動

### ○きらら物産フェアでPR

- ◎きらら物産フェア棚田保全ブースでK集落を紹介(H24年10月13日・14日)
- パネルでK集落を紹介
- ブース来訪者(アンケート回答者)にKで生産した米を配布



宇部在住者から米を購入したい旨連絡が代表に入る

電話でK集落までの行き方を説明したが、集落入り口にサインがないため、わかりにくいことに気づかれる。

集落入り口に看板を設置することを決断され、設置



### 活動のポイント及び成果

- リーダーと補佐役の確保(役員)
- 役員との事前協議 → 全体協議
- 意見交換により参加者全員の不安を払しょく
- 女性全員が参加(代表の強い思い)
- やりたいこと全て出し合う
- できることはすぐに実施
- 全員の意識が確実に変化
- 公民館に活動実績を随時展示
- 組合員外からも協力を得ていった

農事組合法人S会（K集落）を今後支援していくにあたり  
必要と思われる視点（案）

